



2002年1月23日 第3種郵便物認可(毎月3回5の日発行)
2017年9月9日発行 SSKW 増刊通巻4308号

社会福祉法人藤沢育成会

moderato

【モーデラート:中くらいの速さで(音楽用語)】

Vol.74



【特集】「わたしたちの活動を紹介します」……P2-P5

【30周年記念シリーズ②】

法人設立、そして事業所を次々新設……P6

■「Samu's Voice」: 理事長コラム……P7

■「ますます華麗に 節子の部屋」: 西條節子さんコラム……P7

■2017年チャリティコンサートのご案内……P7

■「あっと!」表紙解説……P8

『あっと!』 日常の中で 見つけたアート



ひとつ、ひとつ、丁寧にバリを取りたら、
マス目の上に並べます。

勝野賢さんはどんな作業もマイペースに、
そして、とても丁寧に仕上げます。
その中でも、このゴム製品のバリ取り作業は
勝野賢さんの几帳面さが最も表れています。
寸分の狂いもなく、綺麗に並べられた作業品は、
その成果です。

小さな作業の積み重ねが、大きな成果になって
目前に表れるというのは、とても嬉しいことですね。

(湘南セシリ亞 小室竜也)



PROFILE
勝野 賢さん
湘南セシリ亞

●編集/いわむ会【(社福)藤沢育成会 施設利用者家族会】
●〒251-0016 藤沢市弥勒寺2-7-13 (湘南あおぞら内) TEL0466-25-5551 FAX0466-25-5556
●責任者/石川 修
●(社福)藤沢育成会URL ◇ <http://www.f-ikusei.or.jp/>

●発行所 〒157-0073 東京都世田谷区砧6-26-21
●特定非営利法人障害者団体定期刊行物協会
●定価50円

特集

わたしたちの活動を紹介します







みらい社入社式



みらい社入社式（1991年）

30周年記念シリーズ② 法人設立、そして 事業所を次々新設



湘南ゆうき村、白浜養護学校で仮住まい（1995年）



湘南あおぞら開所式（1998年）

作業所時代という平和で実り豊かな10年間の揺籃期を経た後、藤沢育成会は1988年11月22日、社会福祉法人の認可を得て、新たに社会福祉法人藤沢育成会としてスタートを切った。任意団体、藤沢市精神薄弱者（児）育成会（当時の名称、現・藤沢市手をつなぐ育成会）を母体として法人化したのが、社会福祉法人藤沢育成会であるが、母体の藤沢市精神薄弱者（児）育成会は、そのまま任意団体として存続することになった。同じ藤沢育成会の名前を冠しているが、親の会として藤沢市精神薄弱者（児）育成会は運動体の機能を果たし、新たに発展する社会福祉法人藤沢育成会は、事業体としての機能を担っていくという機能分担がなされたのであった。

1988年の段階で親の会としての藤沢育成会は、作業所4か所とグループホーム1か所を運営していた。子どもたちの将来の生活を考えるとぜひとも入所施設が欲しいという声が、親御さんたちから沸々と湧き上がっていた。制度上、入所施設は社会福祉法人にしか建設認可が下りない。それでは社会福祉法人を作ろうと親御さんたちが立ち上がった。しかし、資金の壁は大きかった。社会福祉法人設立には、自己資金1億円が必要なのである。西條節子さん（当時市議会議員、後に法人2代目理事長）の全面的なバックアップを得て、親御さんたちが寄付集めに奔走した。1世帯30万円ずつの寄付をお願いすることにして、なんと親の会の200所帯の方が協力を申し出してくれて、6000万円の資金を集めることができた。他に一般の寄付なども含めて1億円の自己資金調達を見事達成し、法人設立に漕ぎ着けたのであった。この親御さんたちの情熱とパワーによる法人設立は、全国的に注目を集める快挙だった。

念願の入所施設・湘南セシリ亞が利用者40人を迎えて、1989年5月にオープンした。作業所時代には、10人にも満たない職員しかいなかった藤沢育成会に入所施設ができたことで20人以上の人人が新たに職員として加わることになった。これからは「作業所組」と「新規採用組」の職員が混然一体となり、新生社会福祉法人藤沢育成会を作っていくなければならない。富士山麓、中山湖畔の合宿所を借りて、一泊で「作業所組」と「新規採用組」の顔合わせを兼ねた合同研修が開かれた。昼間は湖上で一緒にボートを漕ぎ、ソフトボールの試合をして親善を深め、夜は遅くまで障害福祉について熱く語り合った。新旧の職員たちが自然に溶け合って新しい法人の体制が整っていった。

湘南セシリ亞の開設から2年後の1991年4月、みらい社がオープンした。働くことを通じた社会参加を目指す本格的な就労支援事業所である。当初、みらい学園という事業所名の案もあったのだが、就労支援事業所ならやはり、会社らしい名前にしようと、みらい社の名称が選ばれた。普通の会社と同じ環境を提供しよう、しっかりと働くと利用時間を9時から5時までとすることにし、利用者は社員と呼ぶことにした。この伝統は今でも脈々とみらい社の特徴として、引き継がれている。

1994年4月、遠藤に土地を購入し、2階建ての建物を建設して、鵠沼海岸にあったよし介工芸館がそこに引っ越ししてきた。ここに法人本部も置かれることになった。土地の遺贈など法人に多大な貢献をされた、黒崎義介先生の銅像が庭に立てられ、2階には先生の遺品を展示する「ギャラリーとき」が開設された。

翌1995年10月、西俣野に湘南ゆうき村が開設された。2階に比較的障害の重い知的障害者が通う通所事業所、1階に高齢者・身体障害者が通うデイサービスセンターを設置した複合施設である。建設予定地を掘り起こすと弥生時代の遺跡が出てきて発掘調査をすることになり、開設が当初の4月の予定から半年遅れて10月になった。養護学校高等部の卒業生を4月から受け入れることになっていたが、建物がまだできていない。半年間の活動場所を探して奔走した。幸いにも白浜養護学校に空き家になっているプレハブ校舎があり、教育委員会の厚意でその建物を借りられることになった。半年間の仮住まいを経て、無事湘南ゆうき村がオープンした。開設後は地元の町内会と共同で収穫祭を開催するなど湘南ゆうき村は地域に根差した活動をしているが、当初から様々な人々や資源に囲まれ、育んでもらっていたのだった。

1998年4月、法人として2つ目の入所施設、湘南あおぞらがオープンした。障害者施設の新設に当たっては、多くは誤解に基づく誤解の反対に遭遇するものだが、湘南あおぞらは市街地と言っている小塚の地に、地主さんの厚意により一部土地の寄付を受け、地元に歓迎される形で開所することができた。地元の弥勒寺商店会と合同で「あおぞら祭り」を開催するなど、地域に密着し、地域と共に歩む施設として着実に存在し続けている。（事務局 小林博）

Samu's Voice 12

社会福祉法人藤沢育成会 理事長 石川 修



ドラマの中の障害者

社会が“障害者”をどう見ているかをドラマで見る。かつては山下清をモデルにした「はだかの大将」が人気だった。ふんどしひとつで街を闊歩するなどの奇行がドラマ化しやすいようだ。イディオサバンはドラマ化しやすい。イディオサバンとは偏った特殊能力がある状態。山下清の切り絵も一例。「レインマン」は、自閉症の兄を施設から連れ出し、透視能力を利用し儲けた弟が最後に兄弟愛を見せる。また、世界を股にかけ大活躍の「フォレストガンプ」。特殊能力のある障害者は映像化しやすいようだ。TVドラマ「あたる」は、刑事なのに自閉症の主人公が珍しい。自閉症の特徴をつかんでいたが、現実離れしたドラ

マだった。障害者理解は深まらない…。

時代の違いを感じたのは「エレファントマン」。白黒が一層時代を強調。見世物小屋で象のような顔をさらす青年の行為は、今なら間違なく人権侵害。日本にも同様に自分をさらした人がいる。『中村久子の半生』。“だるま娘”と呼ばれ見世物小屋で口にくわえた筆で文字を書き、口の中で針に糸を通して見せた。障害者が人として尊重される社会になるまでには長い時間要した。

最後に「アイ・アム・サム」。ゆきずりの女との間に出来た娘を育てるサムは、知的障害者ゆえに親権を剥奪された。離れがたい親子を見かねた里親が育てることを断念、サムと暮らすことになった。障害とは、親とは、法律とはなど考える素材が沢山ある。



ますます華麗に 節子の部屋

藤沢育成会後援会『いづみ』会長
西條 節子

名刺で始まるインクルージョン

前号73号の「星の村共同作業所」をよんで昔をいろいろと思い出しました。

今から約45年前、辻堂公民館の場所で活動をはじめて、いろいろと皆様の協力をいただきながら一緒に活動していく中で、星の村ができたの。障害者、職員、家族などは関係なかったなあ。「星の村だから村長がいるのでは？」と意見が出て、村長さんは障害者の方がなったのは前号の記事のとおりですね。その村長さんは「村長なんだから名刺がほしいなあ」といったのよ。「そうだねえ」と、職員は全員みんなに名刺を作って渡しました。村長さんだけではなくて、『動物

飼育班長』『農作業班長』『環境整備班長』などみんなそれに役付があったのよ。

でも、渡した分は3日でなくなり「また作ってください。」ていうの。結局、みなさんその名刺をつかってどんどん挨拶にいっているようなね。計100枚から300枚ほど作ったところでみなさんそれぞれ「もういらないよ」ですって。そんなにたくさん、どうしたのかなあと思っていたら、いつもの買い物の店員さんやお寿司屋さんの板前さんなどにどんどん渡していくんですって。でもね、お話を聞いていると、その方の行動範囲の広さを知ることができたのよ。すごい広さだったわ。そして家族も職員も災害の事を考えたら、その方が自分で自分の事を知ってもらっていれば安心ね。って。

そうそう「みんな8時過ぎにはきている。職員は8：30に来るので遅刻だ」って村長がいってた。「遅刻したから首にするぞ！」なんて、“小林君”はよく言っていたわあ。

インクルージョンふじさわコンサート

平成29年11月18日（土）13時開場 13時30分開演 ◆ 秋葉台文化体育館（藤沢市遠藤2000-1）
【出演】神奈川県立湘南台高校吹奏楽部「white Shooting Stars」／湘南ドルフィンズ・マーチングバンド

お待ちしています！ / ○チケット販売 チケットぴあ Pコード: 341177 社会福祉法人藤沢育成会事業所ほかにて、販売中
○主 催 入場料: 1000円（全席自由、大人・子ども共通）
○後 援 社会福祉法人藤沢育成会後援会「いづみ」、藤沢育成会家族連合会「いつわ会」、社会福祉法人藤沢育成会
○問い合わせ 藤沢市、藤沢市教育委員会、藤沢商工会議所、藤沢市社会福祉協議会、藤沢市みらい創造財団
湘南あおぞら内 0466-25-5551